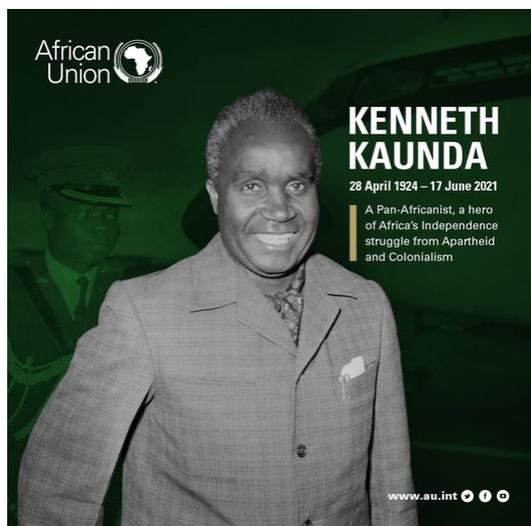


追悼—カウンダ初代ザンビア大統領（非同盟運動第3代議長）

高林敏之（日本 AALA 常任理事）



南部アフリカ・ザンビアのケネス・カウ
ンダ初代大統領が6月17日に肺炎のため逝去
しました。97歳の大往生でした。1950～60年
代に独立したアフリカ諸国の「建国の父」た
ちの中で最後の存命者が、ついにこの世を去
ったこととなります。

当時の英植民地「北ローデシア」で1924
年に牧師と教師（ザンビア初のアフリカ人女
性教師）の子として生まれたカウダは、教
職を経て、1949年に植民地支配と人種差別に
反対する政治運動へ身を投じました。北ロー

デシア・アフリカ人国民会議（ANC）の書記長を経て、1959年により闘争的な統一国民独
立党（UNIP）を結党。南ローデシア（現ジンバブウェ）の白人入植者政権が支配する英領
「ローデシア・ニヤサランド連邦」（1953～63年：現ジンバブウェ、ザンビア、マラウイ）
の解体とザンビア独立を求めて、何度も投獄されながら、マハトマ・ガンディーやマーテ
ィン・ルーサー・キング牧師の影響を受けた非暴力・不服従闘争を主導しました。

ザンビアを1964年の独立に導き初代大統領に就任したカウダは、アフリカのみならず
非同盟・発展途上諸国を代表する国際的政治家として活躍し大きな尊敬を集めました。周
囲を白人少数支配体制の南ローデシアやポルトガル植民地（アンゴラ、モザンビーク）な
どに囲まれ、南アフリカのアパルトヘイト体制からも圧迫される厳しい環境の中、彼はタ
ンザニアの故ジュリアス・ニエレレ初代大統領と並ぶ南部アフリカ前線諸国の指導者（1985
年のニエレレ引退後の議長）として反アパルトヘイト・反植民地主義闘争を精力的に支援
し、平和的な解放を実現するための仲介にも尽力しました。また1970年度と87年度の2
度アフリカ統一機構（OAU：現アフリカ連合）の議長を務めました。

特筆すべきは、1970年に首都ルサカで6年ぶりとなる第3回非同盟運動首脳会議を主催
し議長（1970～73年）を務め、一時停滞していた非同盟運動の再生に大きな役割を果たし
たことです。この会議は南ベトナム臨時革命政府がオブザーヴァーとして参加し、運動の
制度化が図られるなど、非同盟運動の新たな発展の画期となるものでした。

しかし国内では、UNIP一党独裁体制や、基幹産業である銅鉱山の国有化政策が銅価格の
下落や経営の失敗などにより行き詰まり経済状況が悪化したことへの不満が高まった結果、
1991年の民主化総選挙で敗北し、27年間務めた大統領職を平和裏に退きました。

1998年に政界を引退した後は、子息の病死を機にエイズ感染症防止運動に身を投じたり、アフリカ連合（AU）の賢人パネルの一員（2010～13年）としてアフリカの紛争防止・解決活動に関わるなど、幅広く活躍しました。大統領在任時の独裁的な政治にもかかわらず、ギターを手に歌うのを好む好きな気さくな人柄により晩年まで慕われました。愛用のサファリスーツは今やザンビアで「カウ ندا・スーツ」というブランドになっています。